

# 平成26年度事業計画書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

## I. 事業計画概要

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金として2年が経過しました。本年も、美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進と我が国文化の発展に寄与する、という目的に則り、より積極的に、より魅力的な事業を実施します。

## II. 事業毎の計画

### 1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

#### (1) 石洞美術館

##### a. 展示計画

石洞美術館の展覧会は、原則として年3回の企画展を実施しています。

本年度は、下記の展覧会を開催します。

#### 「第43回伝統工芸日本金工展」

公益社団法人日本工芸会との共催の展覧会です。石洞美術館で隔年開催しており、本年度で43回を数えます。弥生時代に始まる我が国の金属工芸は、その技術が連綿と伝えられて今日に至っています。しかし、伝統を保持することは、時代の要請に応えながら、新しい試みを続けていくことでもあります。この伝統工芸日本金工展は、金作家の新しい試みの場でもあり、金工の魅力を見直す機会になっています。この展覧会を通して、現代の金工の魅力に触れて頂きたいと思います。

#### 「山武能一コレクション 初期伊万里展」

日本最初の国産磁器である伊万里焼は、1610年代に、現在の佐賀県で始まりました。1650年代には、ヨーロッパへ大量に輸出されるようになりますが、この輸出が始まる前までの伊万里焼を初期伊万里と呼んでいます。初期伊万里は、朝鮮から伝わった技術によって焼かれていましたが、その目指すものは中国磁器で、最初から中国風の磁器を焼造していました。同じ時期に中国で焼造され、日本に輸出された磁器が古染付ですが、どちらも自由闊達の絵付けで、日本の

茶人たちに愛され、日本各地で買い求められました。

山武能一コレクションは、初期伊万里の纏まったコレクションとして知られています。当館所蔵の古染付コレクションとは、また別の味わいがある初期伊万里の器を、染付の清涼感とともに味わって頂きたいと思います。

#### 「土屋コレクション マイセン展 PartⅢ」

土屋コレクションは日本でも有数のマイセンコレクションで、3回目の展覧会になります。マイセンでは、シノワズリーと呼ばれる中国趣味（東洋趣味）の器製作から始まって、やがてヨーロッパ的な華麗で優美な器製作に変化してゆきます。今回は、土屋コレクションの中から、日本の伊万里焼の影響を受けたマイセン磁器を中心に展示し、ヨーロッパ的なマイセン磁器とは異なる東洋風のマイセン磁器の魅力を味わって頂きたいと思います。

「仏教の来た道 一館蔵仏教美術展一」	4月1日～4月6日
「第43回伝統工芸日本金工展」	5月3日～6月15日
「山武能一コレクション 初期伊万里展」	7月12日～12月14日
「土屋コレクション マイセン展 PartⅢ」	1月10日～4月5日
「第31回淡水翁賞受賞作品展示」	3月後半～4月5日

#### b. 広報活動

昨年度に引き続き「ぐるっとパス」に参加し、美術館・博物館に興味を持っている人が来館するきっかけにします。

#### c. 資料の収集

魅力有る展示を行っていくため、資料収集方針にしたがって、今年度も新たな資料の収集を行います。

## 2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

### (1) 助成事業

本年度は下記の研究に対し助成を行います。

- a. ハーバード大学東アジア文化部の留学生に対する助成
- b. 石井美恵 アルメニア正教会エチミアジン大聖堂附属博物館の染織文化財の調査と保存
- c. 長久智子 スウェーデン近代工芸デザイン運動と日本近代工芸デザイン運動の交差 —1950年代の陶芸、セラミック・デザインを中心に
- d. 大多和弥生 北欧に存在する漆工芸品の調査報告
- e. 相原健作 粒金技法の科学的解明と復元実験
- f. 一般社団法人全日本刀匠会事業部 手打鑢製作技術研究会
- g. アジア漆工芸学術支援事業実行委員会 アジア漆工芸学術支援事業 —ミャンマー バガンにおける漆文化交流

### (2) 表彰事業

淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

若手金工作家奨励のための淡水翁賞は、今年度で31回目を迎えます。

第31回淡水翁賞の募集は9月頃開始、12月25日をもって締め切りとし、選考の上、3月に授賞式を行います。